

# そらがく

後期号 (No. 41)  
24. 3. 13 発行  
現職研修委員会  
総合的な学習部編集



## 総合的な学習の時間とESDのルーツは

総合的な学習部長

平木 教男

古い話をします。平成十二年(二〇〇〇)から、総合的な学習が段階的に実施され始めました。当時、保護者からよくこんな質問を受けました。

「総合的な学習って何の勉強ですか？」

私たちが現場の教師は、このことについて自分なりの考えを持ち、明確に回答する責任がありました。

今、新しい公共、環境教育、ESDといった今日のキーワードが次々に登場してきています。私たちは、これらを総合的な学習とからめて明確に自分の言葉で説明できなくてはなりません。そのために、総合的な学習のルーツから順に、一連の歴史を自分なりに整理してみました。

総合的な学習の基本的な理念のルーツは、昭和二十一年(一九四六)にユネスコが提唱した「国際理解教育」にさかのぼります。大戦後、「もう戦争は絶対にしてはならない。平和や人権を教育の中心にするべきだ」という話し合いが行われました。その内容は、人権、平和に関する問題はもとより、人口増加、食糧、エネルギー、さらに、環境や情報の問題のように、地球全体のこととして提唱されました。これらは、一教科では解決できない問題・一国では解決できない問題であって、多くの国々が協力してこそ解決できることです。そのためにはお互いの国を理解し合わなくてはなりません。いわゆる「国際理解教育の重要性が、教科を超えた学習の必要性とともに叫ばれた」わけです。さらに、「誤った情報に左右

ない」、「言うだけではだめ。問題解決に貢献できる行動力を！」という視点も大きくクローズアップされ、これが総合的な学習の基本的な理念となりました。(一部を大阪教育大松本勝信先生講演から引用)言うならば、「教科学習を自らを変え高める勉強」、「総合を、周りも取り込み一緒に変わろうとする勉強」というとらえ方をすると分かりやすいかもしれません。

この理念を「共生」というキーワードにして平成十年(一九九八)に総合的な学習は本格始動しました。共生は今も中心をなす基本理念なのですが、浸透したためにとりたてて言われなくなったようです。

そして、平成十一年(一九九九)、中央環境審議会から「これからの環境教育・環境学習・持続可能な社会をめざして」という答申が出され、ESDの名前で理念が統合されました。平成十四年(二〇〇二)、日本はこのESDを、第五十七回国連総会で提案。満場一致で採択され、持続可能な社会をめざす教育が「ESDの十年」として平成十七年(二〇〇五)から世界中で具体化されることになりました。

一方、国内では、平成十八年(二〇〇六)に新教育基本法が成立し、「生涯にわたって成長する意欲を育てること」や、「積極的に社会の形成に参画する態度を育てること」(新しい公共)が明示されました。これを受けて新指導要領の総合的な学習では「情報の収集・問題解決→まとめ・表現→新たな課題」という探求のプロセスを子どもの力にしよう」という目標が明確化されたと理解しています。

こうして見てくると、総合的な学習とESDのルーツは同じであること、そしてその基に、ユネスコ憲章の思想があり、『人としてどう生きるか』という視点で自他を見ることがのできる子どもを育てようという趣旨があると考えられます。

先日参加した研修会である先生はこう答えました。「総合的な学習とは体全体を働かせて、本物と出会い、深く感じ、仲間と共に考え合う学習です。ESDとは、ふるさとに根ざし、世界的な視野をもって、仲間と共に人間の生き方を見つめ直そうとする視点だと考えます」。

さてあなたは、保護者から「ESDや総合的な学習って何の勉強ですか？」と問われたとき、簡潔に何と答えますか？



## 研究・研修報告

### ○授業力・教師力アップセミナー(基礎編)

八月三日(水)岡崎市総合学習センターにおいて、授業力・教師力アップセミナーの基礎編が開催されました。まず、竜南中学校の森田淳一先生から、ESD日米教員交流プログラムに参加された報告をしていただきました。ESDの核になる視点が環境となり得ること、アメリカでの環境学習の実態等を教えていただきました。次に、各学年に分かれて、総合



学習の現状と課題についてのワークショップを行いました。その中では、総合学習において本物に出会うことができるようにするための手段として、外部講師を招へいすることの重要性と、意図した授業の目標の達成のための外部講師との綿密な打ち合わせの必要性を議論することができました。最後に、新香山中学校の山内貴弘先生から環境学習への取り組み方についての講演をいただきました。その中で系統性の確保、ESDの視点の導入方法などをご教授いただき、「自分の生活を見直し、他者に影響を与えることのできる人」を目指して実践

を進めていきたいとお言葉をいただきました。

### ○三河教育研究会 夏季研修会

八月二日(火)に、甲山会館・市民会館において、三河教育研究会が開催されました。岡崎からは、北野小学校の柴田多津彦先生が『自然に親しみ、自ら追究する子の育成』小5「ぼくらはヤゴ探検隊」を通しての」の研究を報告されました。会場からは実践に対する熱心な質問が出され、関心の高さと岡崎の教育の確かさを実感することができました。

### ◆三河教育研究会報告

北野小学校 柴田多津彦

第一分科会では、新城の先生方による「総合的な学習における学びのネットワークづくり(インターネットを活用した交流学習の実践を通して)」の実践報告があり、続いて北野小・柴田が実践を報告させていただきました。

新城の発表は、豊かな自然や地元の特産物などを学校間でインターネットを使って紹介したりしながら、子どもたちが交流を深めていくというものでした。協議では、東日本大震災にあった学校との交流を計画しているという岡崎の先生からの意見発表もありました。インターネットを活用して、子ども同士や地域との交流、または学習したことを発信していくことなど、今後の総合的な学習のあり方の一つの方向について話し合いが深まりました。

そして、北野小・柴田は、子どもたちの身近な自然であるヤゴを単元の中軸に据え、教材化することで、地域の自然に繰り返し関わることで、でき、ヤゴ・トンボを起点として自然環境に対する思いや考えが深まった子どもたちについて報告させていただきました。



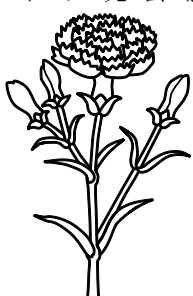
今回の三河教育研究会に参加させていただき、事前体験が活発な対話を生み出すこと、そして、子どもたちが夢中になり、語り合う授業をつくるためには、話題・テーマが大切であることを改めて勉強させていただきました。具体的には次の六点です。①子どもたちが内面を揺り動かされる話題 ②子どもたちが価値を認める話題 ③子どもたちが切実に対話

してみたいと願う話題 ④論議の深まりが期待できる課題 ⑤多様な立場での論議ができる話題 ⑥対立点がある話題です。このような話題・課題づくりができるように、今後も教材開発に力を注いでいきたいと思っております。

### ○岡崎市教育研究大会

九月二日(金)シビックセンター体育集会室において、岡崎市教育研究大会総合的な学習分科会が開催されました。本年度は、昨年度の十三本を超える十八本ものレポート提出がされ、環境学習プログラムの発展事例や、各校の特色を生かし、地域教材などを取り入れた授業実践に対して熱心な討論が行われました。

助言者の鳴門教育大学教授 西村公孝先生からは、環境学習プログラムに対する多大なる評価と、これからの発展のための「学級・学年集団を対象とした量的データによる分析」の重要性をご指導いただくことができました。その結果、梅園小学校の村松香保里先生と藤川小学校の高沢秀昭先生が県教研総合学習分科会の正会員に選ばれました。また、美合小学校山本典弘先生と福岡小学校の小林勝哲先生が能力・発達・学習と評価分科会の正会員に選ばれ、四名の先生が岡崎代表として十月に行われた県教研に参加されました。



### ◆第六十一次 教育研究愛知県集會報告

梅園小学校 村松 香保里

十月二十二日(土)名古屋市の愛知県産業労働センターにおいて、教育研究愛知県集會が行われました。各地域から、国際理解に取り組む実践や、体験活動をもとに生き方を高める実践、地域への愛着を深める実践など、二十六本のレポートが出されました。

特に「地域素材の活用や地域の人々との交流を生かした学習活動の工夫」をテーマとする協議では、活発な話し合いが行われました。社会科の学習をいかして地域のごみ問題の解

決に取り組み実践や、米作りの実践を食育へとつなげる実践 身近な通学路の危険個所に着目し、地域の人のつながりや市政について学ぶ実践など、地域の特質を教材化する様々な工夫を学ぶことができました。

討論では、「子どもの学びを深めたり、自己の生き方を高めたりするための工夫」について意見交換がなされ、子どもに根拠ある考えをもたせる方法や、地域の方との関係のつくり方について、実践を基に話し合われました。また、教師が子どもと一緒に学ぶ気持ちをもつこと、地域の人から得た情報や協力を還元することの大切さについても指摘されました。

「総合学習」の多様性を学ぶとともに、それぞれの地域の特質をいかして単元構成を行う岡崎の総合学習の質の高さを実感することができました。

## 実践記録の紹介

☆ 岡崎市環境学習プログラム

環境教育研究委員会より、岡崎市環境学習プログラムの「指導の手引き」が発刊されます。他教科との関連をうまく利用した横断的事例や、環境学習プログラムを軸にして、各校独自の学習を取り入れた発展事例が掲載されています。ぜひ、各学校で活用ください。新年度の主任会で配布される予定です。

☆ 総合的な学習の時間 実践記録集・指導案集

総合的な実践記録集が本年度もホームページに掲載されました。掲載場所は、

<http://cms.oklab.ed.jp/sougou/>

のトップページから、左側のメニュー中「実践記録集」をクリックして、希望の年度をご覧ください。

また、本年度指導員訪問が行われた学校については指導案がまとめて収集してあります。ご覧になりたい場合は竜海中千賀まで御連絡ください。他の実践を参考に、子どもたちにとってよりよい実践研究を進めていきましょう。

